

表-3 一般講演でのテーマ別発表数

セッションテーマ	発表数		
	オーラル	ポスター	計
Aquatic weeds	9	0	9
Invasive alien species	6	16	22
Parasitic weeds		2	
Weed biology and ecology	7	27	37
Utilization of weeds		1	
Weedy rice	6	3	9
Herbicide tolerant crops	6	3	9
Biological control	12	2	14
Non-chemical control	6	9	15
Allelopathy	7	20	27
Weed management	13	10	23
Weed problem, constraint, and opportunity in different countries	11	5	16
Herbicide resistance	25	26	51
Herbicide	19	13	32
Herbicide usage	19	21	40
New technology	0	3	3
Others	0	6	6
合計	146	167	313

(データ：第26回アジア太平洋雑草科学会議プログラム集)

成果や雑草イネ対策のための取り組みについて報告があった。各国とも雑草イネ対策に苦勞しているが、APWSSでの過去の発表と比較すると研究材料に用いる雑草イネ試料は

ずいぶん豊富になっており、雑草イネの多様性を明らかにする研究は着実に進んでいる。雑草イネは本地域の稲作における最も大きな脅威となり得ることから、これらの研究成果が雑草イネの防除戦略の構築に役立つことを期待したい。

おわりに

地球規模で急増する人口その生活を支え続けるために、農業生産に関わる全ての専門分野において、これまで以上の技術革新が求められている。雑草研究分野は、除草剤の開発・利用に代表されるような実用技術の開発を通して世界の農業生産の向上に大きく貢献してきたが、それでも除草剤抵抗性、侵入雑草、雑草イネなど安定した農業生産を妨げる多くの課題が山積している。気候変動のみならず経済活動や社会構造も大きく変化するなか、それらの脅威はますます大きくなることが予測される。演者たちは、このような状況をふまえながら、将来に向けた研究開発、技術革新の道筋を提案しておられた。今回の会議は、私自身にとっても将来のIWMの在り様をあらためて考える4日間となった。国際観光都市である京都での会議だったこともあり、海外から300名近くの参加が得られた。その一方で日本国内からの参加者は150名程度にとどまった。235名の国内参加があった22年前のつくば会議と比べると、日本人の参加はずいぶん少ない。今回のAPWSS会議に参加できなかった本誌読者の方々が、本稿によって会議の雰囲気や少しでも感じ取ることができれば幸いである。

田畑の草種

草合歓 (クサネム)

マメ科クサネム属の一年生草本。全国の水田や川岸などの湿地に生える。草高数十センチのものから大きくなると1mを超えるものも。葉は頂小葉を持たない偶数羽状複葉。花は淡黄色で1cmほどの典型的な蝶形花。

「クサネム」の名は、同じマメ科の「ネムノキ」の草本版ということであつたようである。しかしながら花の形は大きく異なるし、葉も、「ネムノキ」は同じ偶数羽状複葉ではあるが2回の複葉である。両種とも夜になると葉を閉じる「就眠運動」をするという点では似ているが、これもこの2種に限ったものではない。はてさて・・・。

どちらも在来種で、古人たちの目についていたはずである。目についていたはずであるがクサネムが万葉人に取り上げられることはなかった。万葉人に取り上げられたのは「合歓木」の方であった。万葉集に「合歓木」を詠った歌が3首ある。そのうちの2首。

昼は咲き夜は恋ひ寝る合歓木の花
君のみ見めや戯奴さへに見よ (巻8)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

紀女郎が、若い大伴家持をちょっとからかって贈った歌。それに応えた大伴家持の歌。

我妹子が形見の合歓木は花のみに

咲きてけだしく実にならじかも (巻8)

家持にとって年上の郎女は凛とした宮廷女性であったようである。「合歓」は「ねむ」とも「ごうかん」とも読む。ちなみに「合歓」とは夫婦が同衾することをいう。

クサネムは「就眠運動」のみならず太陽に向かって葉を広げるといふ「日周運動」も。一日中「日周運動」をした後さらに「就眠運動」である。「クサネム」はその動きにかなりのエネルギーを費やしているはずである。そのためであろうか夕方の就眠は早いようである。早く寝て早く起きているのであろうか。土田耕平にこんな歌があつた。

草合歓はすでにねむれり夕ぐれの
岡のへ来れば空のあかるさ